

## 4年ぶり開催の陰陽石まつり大盛況

9月23日、こばやし陰陽石まつりが陰陽石公園で開催されました。神事に続き、地域の郷土芸能や園児のダンスなどのステージイベントが行われ、500人以上が来場。伝統芸能「東方輪太鼓踊り」を東方中学校生徒が見事踊り上げ、会場を盛り上げました。



## イオン宮崎店で須木の秋の味覚をPR

9月28日～10月1日、イオン宮崎店で、すき物産協会主催の須木栗フェアが開催されました。フェアでは、秋の味覚「須木栗」を中心に、お菓子や栗の加工品、すきブランド商品などを販売。来場者は目当ての商品を買い求め、各ブースはにぎわいました。



## 地域づくりを支援 明治安田生命が寄付

10月13日、明治安田生命保険相互会社が市に72万1千円を寄付しました。豊かな地域社会づくりに貢献しようと展開する「私の地元応援募金」として、令和2年度から毎年寄付いただいています。寄付金は、健康や子育て、介護認知症予防施策などに充てられます。



## 子ども達へぞうきん約800枚寄贈

10月5日、小林市地域婦人連絡協議会（上原裕子会長）が、市内の小・中学校に手作りぞうきん約800枚を寄贈しました。上原会長は「ぞうきんは、会員でタオルを出し合い、手作りしました。小学校や中学校で活用してほしい」と話しました。



## 災害時には炊き出し用かまどに変身 (株) タケセンが「かまどベンチ」寄贈

9月21日、建築資材販売などを手掛ける株式会社タケセン（日高彰一代表取締役社長）が、創業100周年を記念して市へ「かまどベンチ」を寄贈しました。かまどベンチは、土台が耐火レンガで作られており、災害時には座板を外して「かまど」として炊き出しに使用できます。寄贈されたベンチは、中央ふれあい広場に設置されました。



KITTO 小林で行われた寄贈式で日高社長は「地域の皆さまに恩返ししたいと思い寄贈した。お世話になった全ての方に感謝したい」と話していました

## 小林生まれの花で故郷をいっぱい 名花「霧島の秋」について学ぶ



生徒たちは「霧島の秋」を25鉢のプランターに移植。市内小中学校に1鉢ずつ配ったほか、10月16日には市長を表敬訪問し4鉢を寄贈しました

9月22日、小林秀峰高校でケイトウ「霧島の秋」について学ぶ授業が行われました。「霧島の秋」は、市内在住の育種家松永一さんが、五穀豊穰の秋を花で表現しようと10年以上育種選抜を続けて完成させたもの。生徒たちは松永さんと縁のある川口の子さんらから「霧島の秋」について学んだ後、プランターに移植する作業に取り組みました。

## 西小林中の森本さん・牟田さん 陸上投てき種目で全国大会に出場



初の全国大会となる牟田さんは「大会では60m越えを目指す。お世話になっている親や友だちにも数字で感謝を伝えたい」と力強く意気込む

10月13日、西小林中学校陸上部3年の森本煌さん、牟田賢叶さんが、10月20日～22日にかけて愛媛県で開催されるJOCジュニアオリンピックカップ第54回U16陸上競技大会への出場を市長に報告しました。森本さんは円盤投げ、牟田さんはジャベリックスロー（ロケット状の投てき物を投げる競技）で全国大会に出場します。

## 出の山名水まつり NAORAI にぎわう

10月14日、15日に出の山公園で出の山名水まつり NAORAI が開催されました。歌やダンスといったステージイベントや出の山謎解き、出の山飲食業組合加盟店による「名水定食（鯉料理）半額感謝祭」などの企画で会場は大いに盛り上がりしました。



## 卒業生が母校に厄払い寄付

10月15日、平成9年度野尻中卒業生が野尻小と栗須小の両校へ厄払い記念寄付を行いました。寄付を受け取った、柏木賢校長（野尻小校長）は「子どもたちの未来を切り拓く力と心を育む教育活動の充実に向け、活用させていただきます」と感謝しました。



## 留学生と交流して国際感覚育む 『World Camp in Kobayashi』開催

10月7日と8日、中学生に国際感覚を育んでもらおうと、ひなもりオートキャンプ場で「World Camp in Kobayashi 2023」が開かれました。市内中学生7人と宮崎大の留学生4人が参加。中学生は英語での発表に挑戦したり留学生の出身国の話を聞いたりしたほかゲームやバーベキューで留学生と交流を深め、外国の文化や習慣を学びました。



参加した西小林中3年の井上凜歩さんは「将来は海外で働きたいので本当にいい体験になりました。またイベントがあったら参加したい」と話していました

## 小学校への期待や希望を感じて 小林小で「年長さんの参観日」



16日に参加した相楽美月ちゃん（育英幼稚園年長）は「勉強しているお兄ちゃんお姉ちゃんたちが格好よかった。学校は楽しそう」とにっこり笑顔

10月16日～19日、小林小学校（吉井秀一校長）で校区内の幼稚園や保育園の年長児、約170人が1年生の授業を参観しました。「小1ギャップ」と呼ばれる進学時のとまどいをなくしたいと、小林小学校区幼保小連絡協議会が企画。同協議会の会長も務める吉井校長は「進学前に小学校への憧れや期待、希望を感じてほしい」と話しました。

## 宮崎県畜産共進会肉用種牛の部が小林地域家畜市場で開催 森田悠斗さんがグランドチャンピオンに輝く



Photo1 グランドチャンピオンに輝いた森田悠斗さんと出品牛「あかり」号 2 河野知事から賞状を手渡される森田さん 3 県内各地の畜産関係者などが集まり熱気に包まれる会場 4 第3類決定審査の様子 5 同時開催の「畜産まつり」では物産品販売や宮崎牛消費拡大コーナーなどが設置されました

10月4日と5日、小林地域家畜市場で「第64回宮崎県畜産共進会」の肉用種牛の部が開かれました。小林市での開催は4年ぶり、本市からは3部門に全11頭が出品。審査の結果、第1類で優等賞首席を獲得した森田悠斗さんがグランドチャンピオンに輝きました。森田さんは「サポートしてもらったたくさんの人たちに感謝。もっと

いい牛を育てられるようにがんばりたい」とよこごびを話していました。

【肉用種牛の部の結果（敬称略）】 ■第1類 ▼優等賞首席＝森田悠斗 ▼優等賞4席＝下村美輝 ■第2類 ▼優等賞4席＝株式会社森田牧場 ■第3類 ▼優等賞2席＝庭山弘人、森田直也、株式会社森田牧場 ■部位賞 体積・均称賞＝森田悠斗

## 平和への思いを新たに 戦没者追悼式を文化会館で開催

10月6日、戦没者追悼式（小林地区）が行われました。今年度から、緑ヶ丘公園から文化会館へ場所を移して開催され、遺族など約200人が参列。式典であいさつした小林市遺族協会の橋満進会長は「終戦から78年が流れても私たち遺族の苦しみ、悲しみは変わらない。次の世代に語り継いでいくことが私たちの責務」と話していました。



式典では、三松小学校大平落結さん（写真①）と小林中学校稲田詩花さん（写真②）による「平和への思い」をテーマにした作文の朗読も行われました

## 安心して食べられる和食に舌鼓 かるかやでハラール対応の食事会



調理は、ハラール対応調理師講習を修了している新穂賢治総料理長が担当。「かるかや」では、今後ハラール料理に対応した宿泊プランを提供予定です

10月1日、すきむらんど「かるかや」でハラール料理（イスラム法で許された食材や調味料を使うなどした料理）の食事会が開かれました。地域日本語教室 KIZUNA の一環で、外国人市民など約20人が参加。アルコール分を含まないハラール対応のしょうゆや味噌を使うなどした和食が提供され、参加者は笑顔で料理を味わっていました。